

全国手をつなぐ育成会連合会事務局又村常務理事より来ました、現在の中近東情勢の中での知的障害者とその家族の置かれた環境についての連帯声明です。（子の声明文のホームページ掲載は又村常務承認済みです。）

お世話になっております。又村です。

日ごろから、全国手をつなぐ育成会連合会の活動へご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本日はインクルージョン・インターナショナルから「中東における知的障害者とその家族への連帯声明」が公開されました。全国手をつなぐ育成会連合会は、国際的な育成会組織の日本支部という位置づけでもあります。ご参考まで、英文も含めて展開いたします。

【ここから】

中東における知的障害者とその家族への連帯声明

中東の人道危機は深刻化しており、知的障害者とその家族は苦境に立たされている。

紛争や緊急事態においては、知的障害者は危険や排除のリスクがより高い。

中東では多くの人々が住み慣れた土地を追われている。多くの支援サービスが停止している。こうした変化の中で、何が起きているのかを明確かつ理解しやすい形で伝えられない知的障害者にとって、こうした経験は一層深刻だ。

避難所が存在する場所でも、そこを利用する知的障害のある女性や少女、少年は、孤立や放置、いじめ、暴力のリスクにさらされやすい。彼らを排除する実態は、支援を行う人道組織の目に届かないことが多い。

知的障害者の主な支援システムである家族は、並外れたプレッシャーにさらされている。追加の介護や支援（メンタルヘルス支援を含む）を担いながら、自分たちへの支援はほとんど、あるいは全く得られていないのだ。

インクルージョン・インターナショナル中東・北アフリカ地域理事のマリエット・シアードは次のように述べた。

「知的障害者と家族は、戦争において最も見えにくく脆弱な被害者であることが多い。生活、日常、安全感が破壊される。突然の変化、激しい暴力、避難、不確実性は、圧倒的な恐怖、混乱、深い精神的苦痛を生む。日常と慣れ親しんだ支援システムに依存する者にとって、この破壊は極めて不安定な状態をもたらす。我々の加盟団体は、安定性、心理的支援、保護を提供するため、知的障害のある人々とその家族が取り残されないよう、たゆまぬ努力を続けている。」

障害者権利条約第11条は、全ての障害者に危機における保護と安全の権利を保障している。しかし、知的障害のある人々とその家族は、今なお取り残されているのだ。

中東全域において、インクルージョン・インターナショナルのネットワークに属する障害者団体は、思いやりを持ってこの危機を乗り越えるための人々を支援する先頭に立っている。具体的には以下の活動を行っている。

避難民や被災家族を障害者向けサービス・支援機関へ紹介する
食料や医薬品などの緊急基本支援を提供する
危機的状況や支援の受け方についてわかりやすい情報を作成する
避難家族が避難所を見つけるのを支援する
避難家族が避難所を見つける手助け、

そして 直接支援を提供し、彼らが繋がりを保てるようにしている。家族が繋がりを保つための直接支援を提供する。

政府や人道支援団体が現状に対応する中で、緊急対応が知的障害者にとって包括的でアクセス可能であること、そして知的障害者とその家族が意思決定に積極的に関与することが重要だ。

情報は知的障害者が理解できる形式で提供されねばならない。救援サービス、避難所、医療は知的障害者が安全にアクセスできるよう設計されねばならない。家族や地域の障害者団体も、ニーズの特定と支援提供における重要なパートナーとして認識されねばならない。

インクルージョン・インターナショナルは改めて表明する。危機下における知的障害者とその家族の権利、尊厳、包摂は任意の選択ではなく、人権上の義務である。

我々は中東の加盟団体、そして深刻な危機に直面しながらも勇気と連帯を示し、互いを思いやり続ける多くの家族や自己擁護者たちと共に立つ。

スー・スウェンソン
インクルージョン・インターナショナル 会長

ルイス・ガブリエル・ビジェラル・ペラルタ
インクルージョン・インターナショナル 副会長

問い合わせ先：
ジェイミー・クックインクルージョン・インターナショナル 事務局長 j
amie@inclusion-international.org